鳴門に吹く「いい風」が、愛する「まち」を育てます

鳴門市まちなか未来ビジョン 素案

2026.3

#むやるんじょ

01　はじめに …… 02

02　まちなかの今

まちなかの特徴と課題 …… 06

03　未来ビジョン

コンセプト …… 07
基本方針 …… 08
エリアビジョン …… 09
活動イメージ …… 10

04　未来ビジョンの実現に向けて

各エリアの具体的な取組み …… 21
まちのコアの整備に向けたロードマップ …… 24
実現化に向けた体制 …… 25

05　検討経過

まちの現状 …… 26
地元・デザイン会議での意見 …… 29

06　まちづくりデザイン会議

これまでの検討経緯 …… 31

港や街道を舞台に、人や物の往来が育んできたまち

港・街道により育まれてきたまち

近世から明治初期にかけての撫養は、かつて北前船の中継地として栄えた撫養の各港を中心に、人や物が行き交う港町として発展してきました。撫養街道（市道斎田撫養駅線）や黒崎方面への街道沿いに商業機能が集積し、塩業を中心とした経済発展とともに、港町ならではの文化が育まれてきました。さらに、明治初期に撫養川に文明橋が架橋され往来が活発化する中、現在の都市構造へとつながるまちの骨格が形成されていきました。

妙見山方向に伸びる撫養街道
（昭和初期撫養町中心部）

鉄道駅の整備による市街地の形成

大正5年（1916年）に撫養駅を起点とする鉄道が開通し、昭和3年（1928年）には旧鳴門駅まで延伸されました。鉄道の整備はまちの発展を大きく後押しし、撫養街道沿いの賑わいと連動しながら、旧鳴門駅周辺が「まちの中心」として機能してきました。

市内一円に広がった塩田

土地区画整理事業・駅移転に伴う市街地の拡大

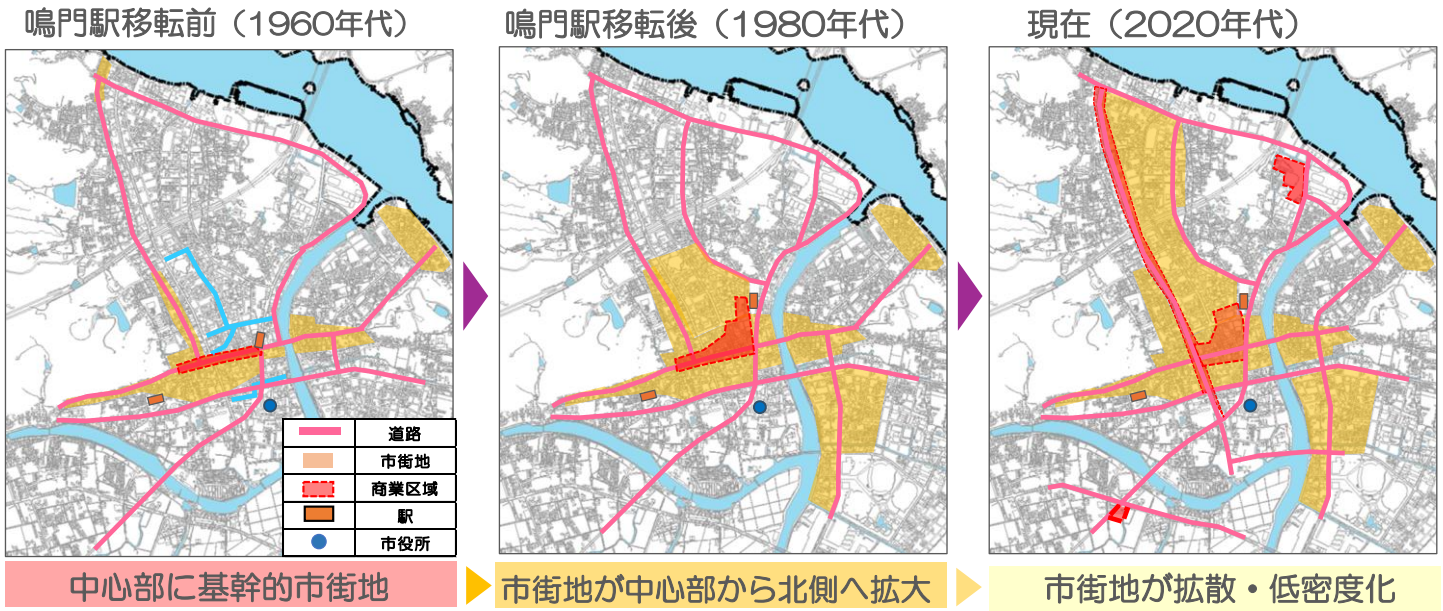
昭和42年（1967年）主に塩田跡地を対象に開始した土地区画整理事業を背景に、市街地は段階的に拡大しました。昭和45年（1970年）には鳴門駅が現在地へ移転し、あわせて国道28号の道路形状の改良が行われるなど、商業区域は新駅の西側へ広がり、市街地も北側へと広がりました。その後、昭和60年（1985年）に撫養土地区画整理事業が完了し、概ね現在の都市構造となりました。

大道銀天街（昭和52年）

中心市街地における都市機能の空洞化

郊外化による中心市街地の低密度化

黒崎バイパス（市道南浜黒崎線）の開通を契機として、1980年代前半以降、自動車交通の利便性が向上し、モータリゼーションの進展と相まって、広い駐車場を確保できる郊外への商業立地が進行しました。市内においては「パワーシティ鳴門」「ハローズ」、市外では「フジグラン北島」「ゆめタウン徳島」といった商業施設の立地が進み、中心市街地の低密度化が加速しました。



まちのコアのコンテンツ不足

鳴門駅を中心としたまちなか、いわゆるまちのコアは、求心力が徐々に低下し、店舗数の減少や空き地・空き店舗の増加といった、いわゆるスポンジ化が進行しました。この結果、駅周辺には人を惹きつけるコンテンツが不足しており、日常的に立ち寄り、滞在する理由が乏しい場所となっています。中高生アンケート等でも「わざわざ寄りたいと思える理由がない」といった意見が多く見られ、若い世代をはじめ多様な世代が安心して過ごせる居場所や、訪れる目的となる機能の必要性が示されています。

中心市街地における都市機能の空洞化

都市構造の課題

鳴門駅は、国道がある東側を向いた構造となっており、駅西側の商業区域との接続性が十分ではありません。また、駅の位置はエリアの北端部にあり、駅を起点とした人の流れがまち全体へと広がりにくい構造です。南北方向には交通量の多い幹線道路がある一方で、東西方向への人や車の流れは弱く、周辺部から駅周辺、駅周辺からまちなかへの回遊性の確保が課題となっています。駅周辺は主に交通結節点としての機能にとどまり、都市拠点としての機能が充分に発揮されていない状況にあります。

大道踏切

まちの顔が無い

鳴門市では、これまで約50年間、中心市街地のまちのつくりに大きな変化が見られないまま現在に至っています。鳴門公園をはじめ、市内には多くの観光客が訪れる場所があるものの、中心市街地は通過型の空間となっており、立ち寄って過ごしたくなる場が少ない状況にあります。そのため「ここに来れば鳴門らしさを感じられる」といった、まちの顔となる場所が明確に形成されておらず、人が集まり、滞在する目的地としての役割を果たしにくい状況が続いています。

渦潮

霊山寺

そこで、2023年に策定された都市計画マスタープランでは、「まちの顔」である中心拠点として、賑わい便利で快適に暮らせるまち を目標とし、市中心部にふさわしい都市機能や居住環境を整え、周辺地域から訪れたくなる魅力と賑わいつくりに努めることを掲げました。

まちなか未来ビジョンに込めた思い

かつて、鳴門のまちなかには、特別な用事がなくても人が自然と集い、顔を合わせ、言葉を交わす場所がありました。しかし、時代とともに、暮らし方や移動手段、買い物や交流の場は多様化し、人が集まる場は次第にまちの外へと移っていきました。その背景には、郊外化の進行のみならず、駅とまちなかの関係、動線のあり方、都市機能の配置といった、都市構造上の課題があります。

このままでよいのか

このまちの未来を、10年先を見据え、50年先を展望するとき、先人たちが積み重ねてきたこのまちを、次の世代へどのような形で引き継ぐのか。その問いを出発点として、本ビジョンは描かれています。

変化は静かに始まり「いい風」へ

駅やまちなかを変えれば、まちが一気に変わるわけではありません。大切なのは、通過するだけの場所となっている空間に、人が立ち止まり、関わり、過ごすきっかけをつくること。
そこから生まれる小さな変化が、人の気持ちを動かし、まちに前向きな“いい風”を吹かせていきます。

「おすそ分け」のように広がる

暮らす人自身が暮らし楽しみ、若者をはじめとする市民の居場所を起点に活気が生まれ、魅力となり、「おすそ分け」のように広がり、関わる人、訪れる人が少しずつ増えていく。通過点となっているまちなかを、行ってみたい目的地へ。日常の延長にある場所を、過ごしたくなる場所へ。未来に向けて、人の流れや賑わいをまちに取り戻していくことが、この未来ビジョンに込めた思いです。

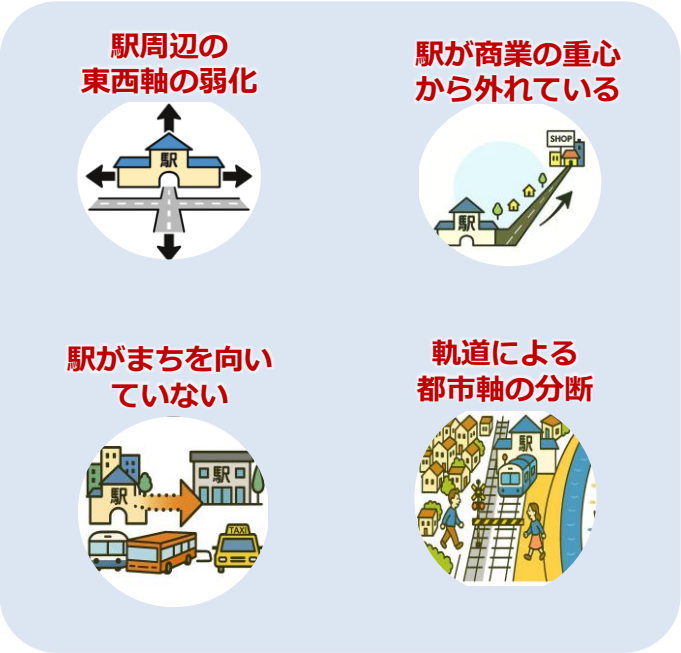
様々な主体を巻き込み、動き出す鳴門の新たな未来

こうした未来を実現するためには、市民、事業者、行政など、鳴門に関わる熱意ある人々が、対話を重ね、様々な主体を巻き込み連携し、ともに動き、まちに“いい風”を吹かせます。その指針となるのが、このビジョンです。

まちなかの特徴と課題

ポテンシャルと構造的課題が併存するまちなかの現在

鳴門駅周辺および隣接エリアには、商店街に加え、県立高校や小中学校が立地しているほか、阿波踊りや撫養街道、撫養川、徳島ヴォルティスのホームスタジアムなど、歴史、自然、文化に関わる多様な地域資源が点在しています。一方で、駅周辺には都市構造上の課題があり、学生や来訪者が立ち寄ろうと思える場所が少なく、空き家や低未利用地が多く、回遊性が生まれておらず、まちの中心としての機能を十分に果たせていません。地域が持つポテンシャルと、都市構造の転換や民間・地域の取組み等を掛け合わせながら、新たなまちづくりに取り組む必要があります。



豊かな地域資源×都市コンテンツの創出

駅周辺での交流機能導入や社会実験等を通じた**「くつろぐ」「学ぶ」「話せる」「楽しむ」が包括された空間の創出**

都市構造の見直し×コアの活性化

駅と商業エリアの関係、鉄道軌道と主要幹線等の**都市構造の見直し、まちのコアの活性化、ウォーカブルなまちづくり**

エリアポテンシャル最大化×公民連携

各エリアの特徴を活かしたまちづくり、公民連携手法によるエリア価値の向上、地域アイデンティティの醸成

コンセプト

鳴門に吹く ”いい風” が、愛する まち を育てます

かつて賑わいを見せたまちなかも、人の流れや都市構造が変わり、様々な課題が顕在化しています。これからの中心市街地では、「まちなかで時間を過ごしたい」と感じられる魅力的な空間をつくり、新たな賑わいを生み出していくことが求められています。そのために、鳴門らしさを大切にしながらまちに新しい発想や活動を呼び込み、人と人、人と場所を結びつける **“いい風”** を吹かせていきます。

人々がまちなかに **“つどい”**、楽しさや心地よさを感じることで、活動や交流が、過去から未来へ、若い世代へと **“つながり”**、地域への愛着や新たな活動が **“育まれ”** ていきます。

そして、周辺へと流れていた人の流れを、まちなかに新たな渦のように呼び込み、中心から周囲へとその魅力を広げていきます。楽しい暮らしを **”おすそわけ”** する。鳴門らしさまちを育てていきます。

若い世代をはじめ、多様な人が**つどい**、関われる場を生み出します。

人や活動、想いを世代を超えて**つなぎ**、新たな活動を生み出します。

暮らしの楽しさや小さな挑戦を**そだて**、まちへの愛着を深めます。

基本方針

まちづくり基本方針

○ 若者に支持される “わくわくするまちなか” を目指す

未来を担うのは彼ら。まちを使う彼らの声を大事に
ちょっと寄りたい、時間を過ごしたいと思える まちなかに変えていく

○ 進化する都市構造から ”エリア価値の向上” を図る

まちのコアの移転から生み出す新たな鳴門の顔
東西都市軸の強化や新たな水辺軸の形成により、まちの価値を引き上げる

○ コンテンツの整備・誘導により “人が溜まる” 空間をつくる

コアにまちの元気を触発するコンテンツを誘導する
中心市街地や鳴門駅のポテンシャルを引き出す周辺整備を進める

○ 公と民が連携し “まちを動かす人材” を育てる

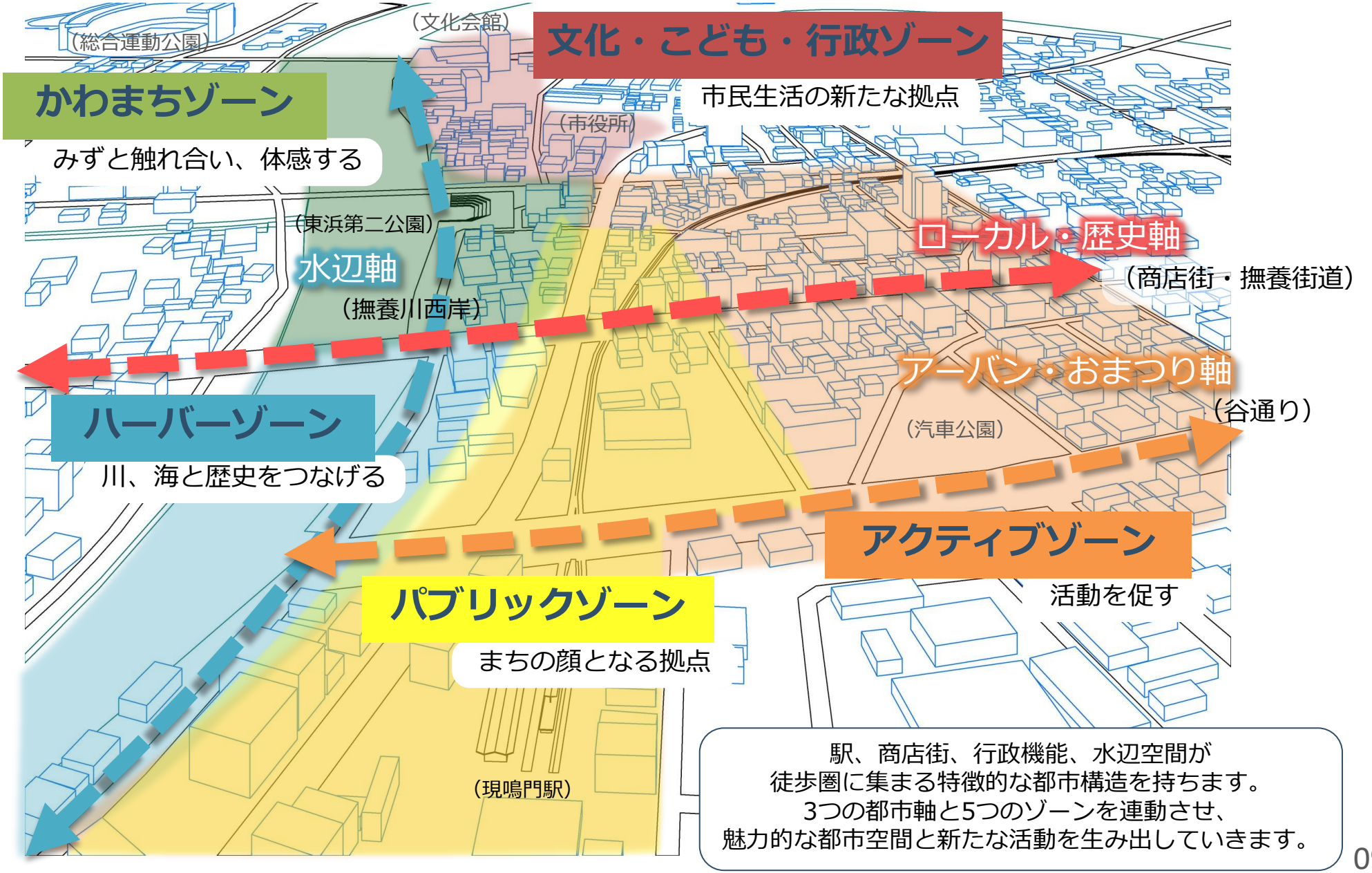
公共空間を拠点に、まちの賑わいを生み出す活動を広げる
社会実験を通じて、新たな人材による まちの使い方を育てる

○ 地域の魅力とまちをつなぎ “鳴門らしさ” のある街を生み出す

個性あるゾーンの形成により、個性ある まちづくりを進める
歴史や文化などの地域資源を活かし、鳴門らしい魅力を紡いでいく

エリアビジョン

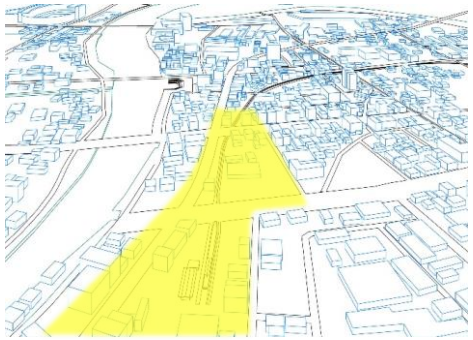
都市軸とゾーニング



駅、商店街、行政機能、水辺空間が
徒歩圏に集まる特徴的な都市構造を持ちます。
3つの都市軸と5つのゾーンを連動させ、
魅力的な都市空間と新たな活動を生み出していきます。

活動イメージ

パブリックゾーン



生まれ変わった鳴門駅と市民の日常に溶け込んだ駅前広場が、人々が集い出会う拠点として、まちの玄関としてふさわしい公共空間を形成するゾーン。
市民に愛される居場所として多様な過ごし方を受け止めるとともに、
公共交通や歩行者の導線をつなぎ、イベントや交流を生み出すまちの顔となる場所。

まちのたまりばに集まる高校生

徳島市内から汽車で通う同級生と時間待ちを
ここで過ごす。ちょっと一緒に何かを食べる、
ちょっと一緒に勉強をする。行けば誰かがいる。
そう、ここはいつでも使える まちのたまり場。

駅前広場で放課後を過ごす中学生

部活がない日は駅前広場がみんなの居場所。
「昨日のインスタライブ見た？」「今日の数学
分かった？」、思い思いに過ごす鳴門っ子と、
それを見守る大人たちが まちの新たな日常に。

鳴門駅に降り立った観光客

初めての徳島旅行は、鳴門駅からスタート。旅の
コンセプトは「暮らすように旅するのんびり旅」。
早速ローカルな美味しいお店を探そうと、
観光案内所へ足を運ぶ。

鳴門出張に来たサラリーマン

仕事の打合せが早く終わったので、コーヒー片手に
パソコンを触れる場所を探して鳴門駅に到着。
腰を落ち着けて集中して作業できる場所が
駅にあるのはありがたい。

活動イメージ

パブリックゾーン

課題や方向性

駅空間や駅前広場･駅隣接区域は、本市の「コア」となる重要なエリアですが、駅がまちの方向を向いていないなど、まちが持つ潜在的なポテンシャルを活かせていない状況です。

また、駅周辺には賑わいを生み出すコンテンツが十分に配置されておらず、人が集まり滞在する空間としての役割を十分には果たせていません。
そのため、まちが動き出すための基盤整備を進めるとともに、必要なコンテンツを配置・誘導するなど、まちにブーストを掛けていく必要があります。

鳴門駅（ロータリーは東側を向いています）

このようなことを考えました

※ 会議で議論･検討されたまちづくりの視点の一部を紹介しています。
これらの視点を元に、さらに具体的な議論･検討を進めていく予定です。

まちのコアに、「くつろぐ」「学ぶ」「話せる」「楽しむ」などの活動を生み出すコンテンツを配置し、デジタル設備の導入により情報利便性を高め、滞在したくなる居心地の良い空間を形成することで、まちなかにたまりを創り出すことができるのではないか。

くつろぐ利用者（周南市立徳山駅前図書館）

中心市街地の主要な都市軸である市道 斎田鳴門駅線（通称 谷通り）を国道さらには撫養川まで接続することで都市構造の転換を図っていく。人や車の流れを変え、まちなかの回遊性が向上するほか、駐車場を整備し、車と公共交通を融合した駅へと進化させることで、周辺一帯をウォーカブルなまちへと変化させていくことが期待できます。

谷通りが延伸された場合のイメージ

活動イメージ

アクティブゾーン

緑豊かな歩行空間、熱気あふれる阿波踊りの会場でもある谷通り（斎田鳴門駅線）と、撫養街道の歴史を継承する商店街（斎田撫養駅線）を中心に、人々の活動や交流が広がるストリートとその近辺が一体となり、活気あるまちづくりの場となるゾーン

並木道を散歩する親子

歩道が広くて安心だし、緑も豊かなシンボルロードは、お気に入りの散歩道。高校生が企画参加している社会実験が評判で、子供のお気に入りの汽車公園や周辺の新しいショップなど、最近立ち寄ることが増えている。

阿波踊りに集まる人びと

8月９日から3日間、鳴門の中心はこの阿波踊り会場。子供も大人も観光客もこのゾーンに集まり、まちは一気にお祭りムードに。「非日常」を思い思いに楽しんでいく。

商店街の未来を描くまちづくりの仕掛け人

商店街の店舗をリノベしたまちなかキャンパスで、鳴門の将来を話し合っている。生まれたアイデアは、鳴門発の起業支援のため官民連携で運営されるインキュベーション施設で、次のステージへと展開される。

カレー屋に集まる商店街の店主たち

仕事が終わると自然とこのお店に集まる商店街の店主達。ここでも、鳴門の未来について、熱い議論が交わされている。ちなみにカレーは日本一を狙う本格派。

活動イメージ

アクティブゾーン

課題や方向性

国道28号や黒崎バイパスの南北の通りに比べ、東西の通りは、幅員が広いものの交通量は少なく、市街地のポテンシャルや道路・公園等の公共空間を活かせておらず、空き店舗等が増え、気軽に使える駐車場も不足しています。

谷通りと商店街・撫養街道を東西都市軸に位置付け、アーバンとローカル、２つのストリートの良さを活かした、空間整備と活動創出を展開することで、人を呼び込み､事業者立地を誘引し、回遊性を生み出していくことが必要です。

このようなことを考えました

広い路肩を狭め、植樹による憩いの空間やポケットパークを整備することで、人が自由に過ごせる居場所を生み出します。買い物、休憩や待ち合わせなど、中高生や市民が気軽に立ち寄れる環境を整え、人の「たまり」を創出します。

谷通りに植えられた桜や、通りの中心部に隣接する汽車公園（撫養第３公園）などを活用し、通りやその周辺の魅力を高めていきます。社会実験などを通じ、市民がエリアに親しむ雰囲気を醸成するとともに、空き店舗のリノベーションやフリンジ駐車場等の活用などを図りつつ、まちづくりの担い手の育成を進め、季節の雰囲気を楽しめる空間を形成することで、エリア価値の向上を図ります。

「鳴門の阿波踊り」の非日常感を空間演出するため、インターロッキングやカラー舗装化により、通りをバージョンアップしていきます。

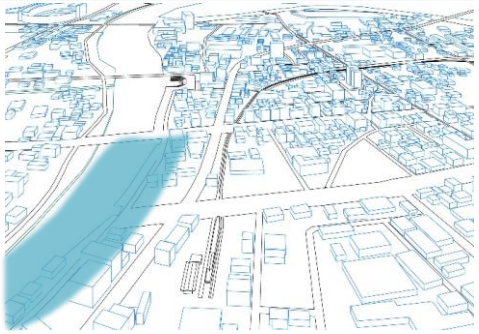
路肩を狭め植樹やﾎﾟｹｯﾄﾊﾟｰｸを配置（イメージ）

並木道化による通りの魅力向上（イメージ）

ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ化で非日常を演出（イメージ）

活動イメージ

ハーバーゾーン



四国の海運拠点として栄えた撫養港の歴史を今に伝えながら、
陸の終着点である鳴門駅と、海への出発点である港が出会う場所として、
また、鳴門町や瀬戸町・岡崎など、海辺のエリアともつながる拠点として、
鳴門らしい個性と賑わいを生み出すゾーン

旅と暮らしが交錯する、まちのベースキャンプ立ち上げのキーマン

港沿いの空き倉庫を再生し、この場所をオープンさせた立役者。観光客が鳴門駅に降り立つと最初に立ち寄る拠点であり、地元住民の買い物や週末の憩いの場であり、地域の事業者の出店や発信の場でもある。

リノベされた倉庫で夢の雑貨屋を始めた若者

撫養港沿いの元倉庫を地元建築家と相談してリノベーションし、ついに憧れの雑貨屋をオープン。港町の歴史に想いを馳せながら、世界中で集めてきたビンテージの雑貨をところ狭しと置いている。

コワーキングスペースに訪れるデザイナー

自分の感性を大切にしたいからこそ、働く場所にもこだわっている。穏やかな水辺を眺めながら作業をすると、新しいアイデアが自然と浮かんでくる。

自転車旅好きの大学生

自転車のまま渡船に乗り、古くから海の玄関口として栄えた撫養港近くで一泊。朝、渡船で通学する学生の姿を横目にカフェで一息ついたら、四国八十八か所の札所へと向かう、鳴門のまちを巡る自転車旅のスタート。

活動イメージ

ハーバーゾーン

課題や方向性

撫養川沿いの本エリアは、現状、倉庫や駐車場が目立ちますが、視界の広がりや開放感、風が通り抜ける心地よさに加え、撫養港として栄えた歴史や情景を感じられる空間です。港とまち、そして鳴門駅をつなぐ新たな南北の水辺軸としてさらに魅力度を高め、東西の都市軸を連携させることで、まちの活動エリアを撫養川沿いへと広げていく可能性を秘めています。

開放感のある撫養川沿いの景色（現況）

このようなことを考えました

鳴門の中心市街地は、陸の終着点である鳴門駅、歴史ある商店街、撫養川の水辺、そして海へとつながる撫養港が近接する特徴的な都市構造を有しています。
谷通りを国道28号と接続し、さらに撫養川まで延伸することで、東西軸と水辺軸に一体性を持たせることが可能となります。

陸上交通と水上交通が結びつく結束点（海へのベースキャンプ）としての新たな都市機能の可能性を探るとともに、歴史や情景を活かしたマルシェの開催や民間事業者の立地誘引、未利用地を活用したポケットパーク整備等を行うことで、文化会館・スポーツパークにも繋がる、特徴あるエリアとしていきます。

居住者の減少に伴い、低利用となった土地や駐車場が多くみられるということは、エリア価値を高めていく余地が大きいともいえることから、リノベーションまちづくりの重点エリアとしての可能性を探っていきます。

歴史を感じさせる美奈登橋（現況）

美奈登橋から撫養川西岸を望む（現況）

活動イメージ

かわまちゾーン

撫養川親水公園やメルヘンプロムナードといった、丁寧に整備された水辺空間を有し、市民の普段使いを通じて、憩いと交流が生まれるゾーン。

マルシェで好きを商いにするUターン移住者

「趣味で人を幸せにできるって最高！」この場所で開かれるマルシェに毎回出店し、日頃から作りためている編み物雑貨をまちのみんなにお披露目している。

グリムメルヘンプロムナードを散歩する住民

ドイツに姉妹都市を持つ鳴門市は、グリム童話にちなんだ散歩道がある。壁に刻まれた童話のモチーフが、犬の散歩やジョギング、孫との散歩など日々の暮らしに彩りを与えてくれる。

船でスポーツパークに向かうサポーター

鳴門駅近くから船に乗り、応援するプロチームの試合観戦へ。追い風に吹かれてスタジアムに近づくにつれ気分も高まり、今日は絶対勝てる気がしてくる。

プロムナードを清掃する地元住民

土曜日の朝、近くに住む仲良し組でこの道を綺麗にしている。終わると近所へモーニングに出かけるまでが、毎週のルーティーン。

活動イメージ

かわまちゾーン

課題や方向性

市の中心市街地に隣接する撫養川沿いは、市民が思い思いに散歩などを楽しむ整備された河川空間であり、ハーバーゾーンと文化会館、さらには県鳴門総合運動公園をつなぐ大切なルートです。市民の日常利用を支える身近な水辺として活用を図りつつ、川をまちづくりに活かしていく必要があります。

親水公園から文化会館を望む

このようなことを考えました

河川空間の利活用に向け、河川管理者と協議を行い、河川敷地占用許可制度の活用による、河川エリアでのイベント等の実施を目指します。
また、民間団体等と連携しながら、マルシェ等の公民連携事業に積極的に取り組むことで、賑わい創出とエリア価値の向上を図ります。

撫養川西岸グリムメルヘンプロムナード

老朽化した川沿いの遊歩道の改修、ハーバーゾーンとかわまちゾーンとの接続強化、公民連携による公園等の水辺空間の利活用を進め、両岸の水辺空間を活かした憩いと賑わいが生まれる拠点空間へのリニューアルを図ります。

東浜第二公園の様子

活動イメージ

文化・こども・行政ゾーン

新しくなった市役所、鳴門市文化会館、こども未来館が集まり、
文化芸術活動や子どもの育ち、市民交流を支えも世代が交差する公共拠点として、
豊かな生活を支えるゾーン

子育てルームで遊ぶ親子

はいはいの子どもを思いっきり遊ばせたい、
親同士で子育ての情報交換をしたい、そんな時は
この場所に来る。地域のつながりを感じられ、
大変な育児も少し気持ちが楽になる。

第九が好きな地元のシニア層の男性

定年退職後、地元の合唱団に所属。今日はいつもの
練習に加え、イベントに向けた施設スタッフとの
打合せの日。実は、イベント後の反省会という名の
飲み会が一番の楽しみ。

推し活遠征に来た県外の大学生二人組

推しアーティストの全国ツアー@鳴門を見終え、
感想を語り合っている。都会よりチケット倍率は
低めだし、ここは推しを間近に感じられるのも魅力。
次は鳴門小旅行も企画中。

放課後に勉強に立ち寄る中学生

家の外で勉強したいときは、いつも市役所かこども
未来館に行く。周りに大人がいるから親に心配を
かけないし、なにより家よりもぐっと集中できる。

活動イメージ

文化・こども・行政ゾーン

課題や方向性

市役所庁舎をはじめとする公共施設が集積したゾーンです。市役所新庁舎を皮切りに施設の改築や改修、用途転換が進められており、行政機能に加え、文化や子育て機能を核とした、市民生活の新たな拠点エリアとしての機能が期待されています。駅周辺のゾーンとの連携が重要となります。

市役所で開催されているマルシェ

このようなことを考えました

市役所庁舎は、マルシェイベントの定期開催やフリースペースの利用などを通じて、市民が気軽に立ち寄れる公共施設としての利用を進めています。

文化会館と、こども未来館は、令和９年度に開館に向けて、再整備が進められており、開館後は新たな賑わい場として、まちなかに新たな人の流れを生み出すことが想定されます。

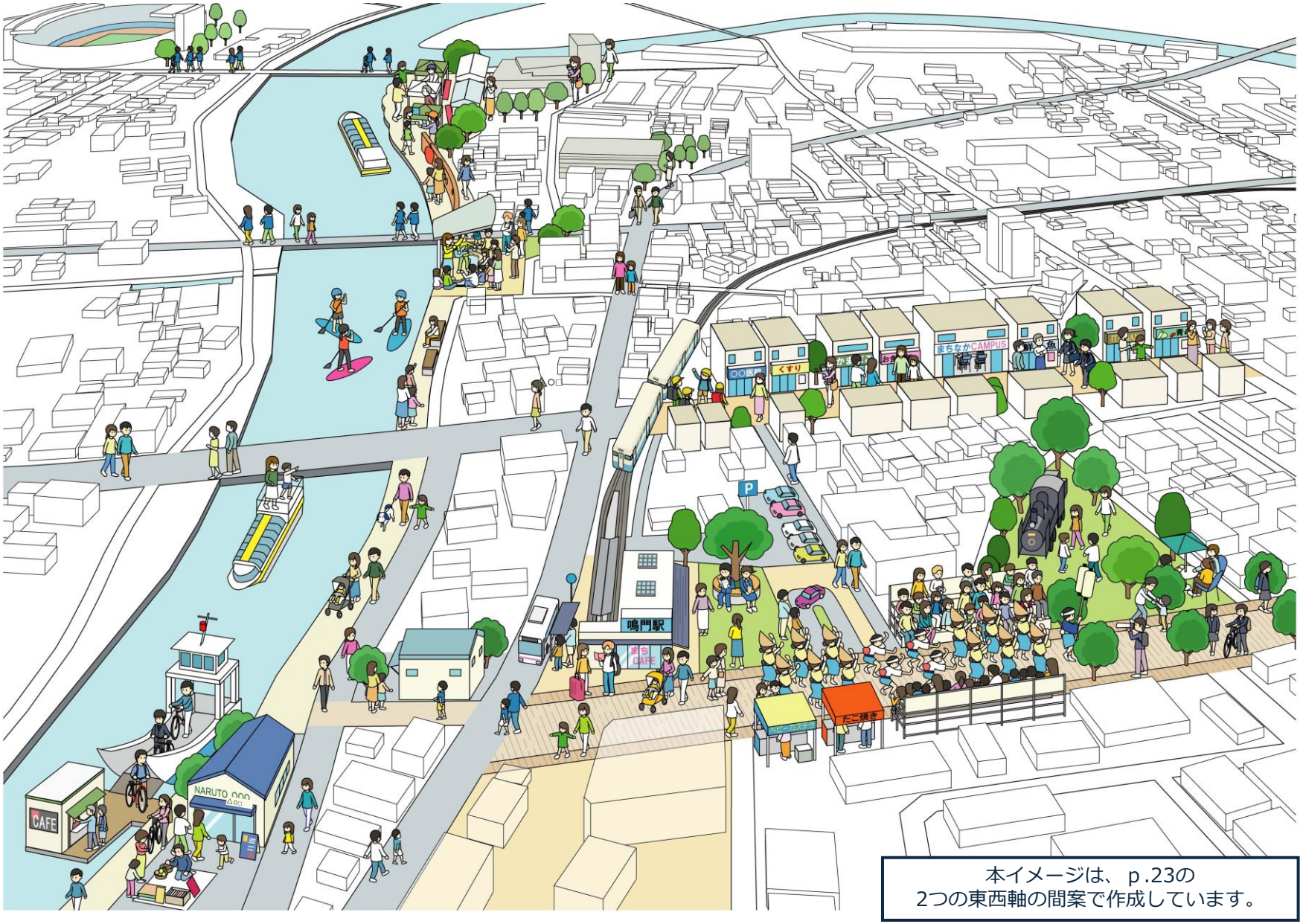
文化会館などの施設は、撫養川沿いに立地しており、鳴門駅とスポーツパークがつながるルート上にあります。そのため、かわまちゾーンの活用と連携したイベントの実施などを通じて、文化・子ども・スポーツをつなぐ新たな人の流れを生み出すことが期待されます。

撫養川東岸から文化会館を望む

子ども未来館に改装中の健康福祉交流センター

活動イメージ

全体の様子

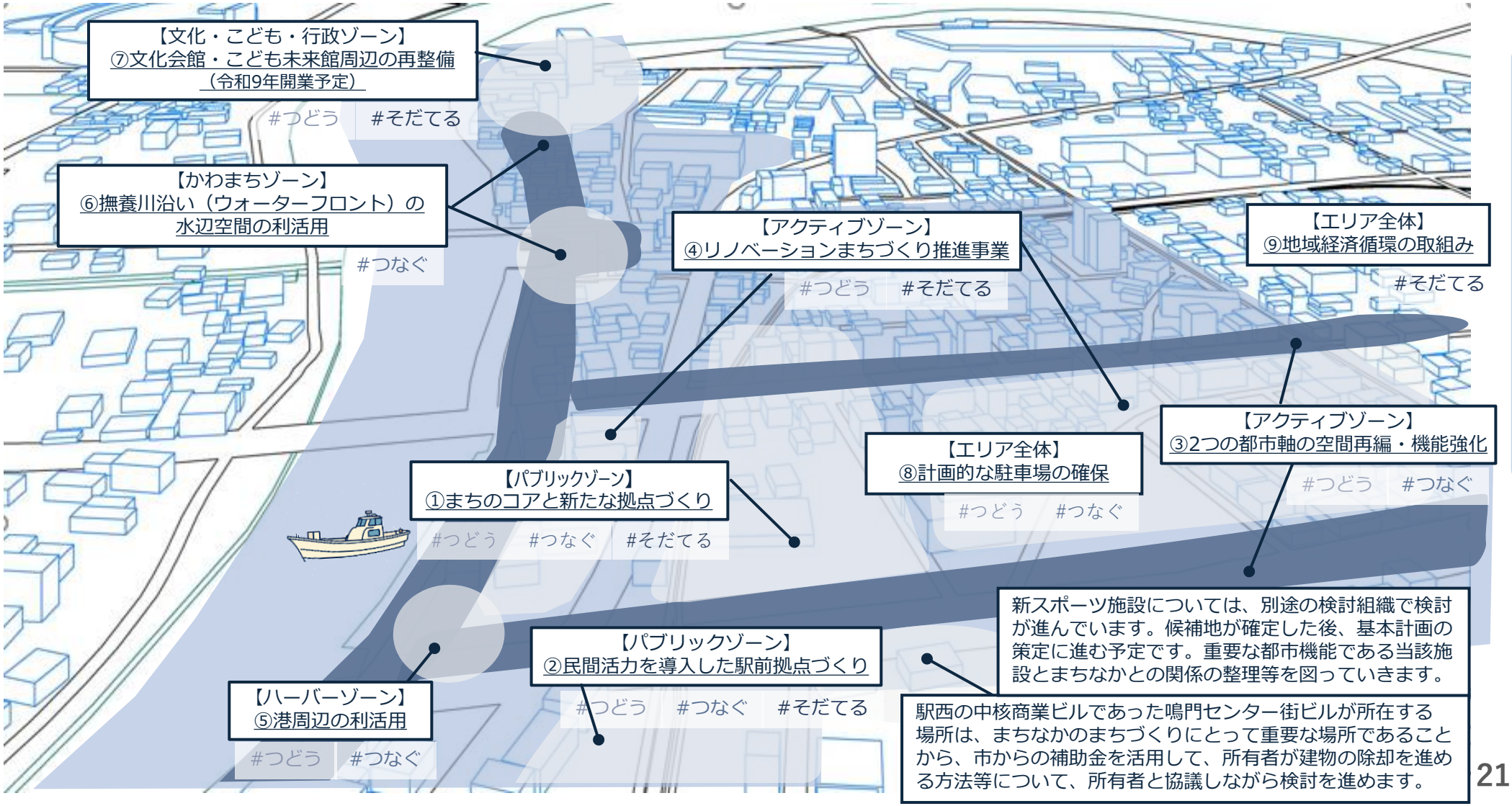


本イメージは、 p.23の
2つの東西軸の間案で作成しています。

各エリアの具体的な取組み

人々が “つどう” 仕掛けを 軸で “つなぎ” 、若者とともにまちを “そだてる”

都市構造の転換と新駅舎の整備を契機に、２つの東西軸や撫養川沿いの空間再編、公共施設の建て替えや改修などのエリア周辺の取組みを掛け合わせ、賑わいの創出やエリア価値創出の取組みを進めていきます。



各エリアの具体的な取組み

取組み一覧

No.	取組み	概要	短期（～5年）	中期（～10年）	長期（10年～）
①	まちのコアと新たな拠点づくり	駅や交通広場、カフェ・本・学びを集めた交流機能の整備により、駅及び駅に隣接する場所を つどい、つなぎ、そだてるシーンの象徴となる場にしていきます。			
②	民間活力を導入した駅前拠点づくり	民間事業者等による宿泊施設等の都市機能・サービス施設等が集積する拠点づくりの実現に向け、ＰＰＰなど、サウンディング調査等から取り組みをを進めます。			
③	２つの都市軸の空間再編・機能強化	車線再編による歩行空間の拡張や歩きやすい歩行者空間の創出、まちなかキャンパスや屋台村の展開、社会実験やほこみち等を活用した道路・公園の有効活用により、日常的な滞在と交流が生まれるウォーカブルなまちなか空間を形成します。			
④	リノベーションまちづくり推進事業	空き家や空き地などの既存ストックを活用し、飲食・物販などのチャレンジショップの展開等を通じて、小さな取り組みから新たな賑わいを創出するとともに、地域で活動するプレイヤーを育てます。			
⑤	港周辺の利活用	谷通りと美奈登橋との接続、撫養港の港湾施設を生かした水上交通の活性化や空き家・倉庫等のリノベーションを促すなど、本エリアを「海の玄関口」として、新たな賑わいを創出します。			
⑥	撫養川沿い（ウォーター―フロント）の水辺空間の利活用	鳴門駅から文化会館周辺をつなぐ撫養川沿いの水辺空間を市民の日常利用を支える身近な水辺として活用を図りつつ、河川空間のオープン化や遊歩道・浮桟橋の改修、マルシェ等の公民連携事業などを進め、新たな憩いと交流を生み出します。			
⑦	文化会館・こども未来館周辺の再整備（令和９年開業予定）	文化・こども・学びの賑わい交流施設として再整備を図ります。年齢・立場を問わず、市民が思い思いの時間を過ごす中で、新たな発見や交流や成長を促す場にしていきます。			
⑧	計画的な駐車場の確保	車で訪れる人が気軽にまちなかを利用できるよう、停めやすく分かりやすい駐車場の確保を進めます。フリンジパーキングの手法等も参考にしながら、歩いて回りやすい環境をつくり、まちなかでの滞在や賑わいにつなげていきます			
⑨	地域経済循環の取組み	当エリアで出店する人に対する支援や、買い物時のポイント還元等の経済施策を通じて、店を出したくなるまちづくり、まちなかの人が楽しみながら地域内でお金が循環する仕組みづくりに取り組み、プレイヤーを増やし、まちをそだてます。			

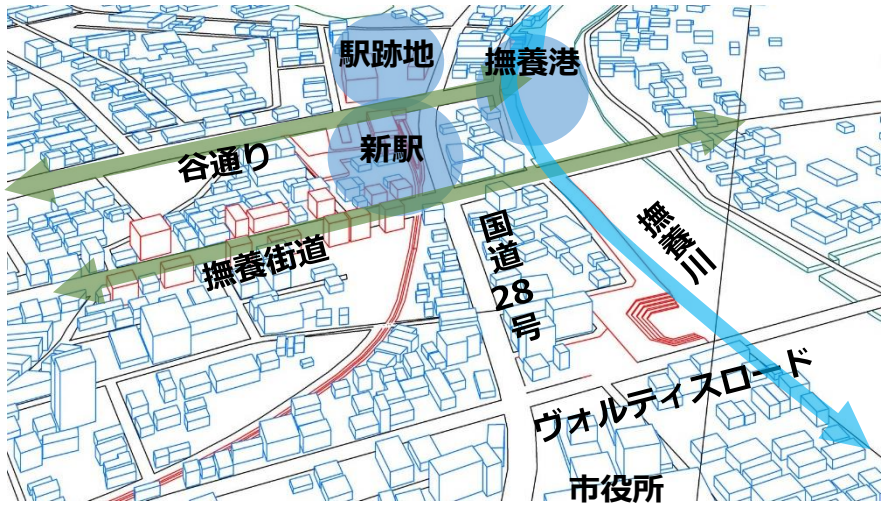
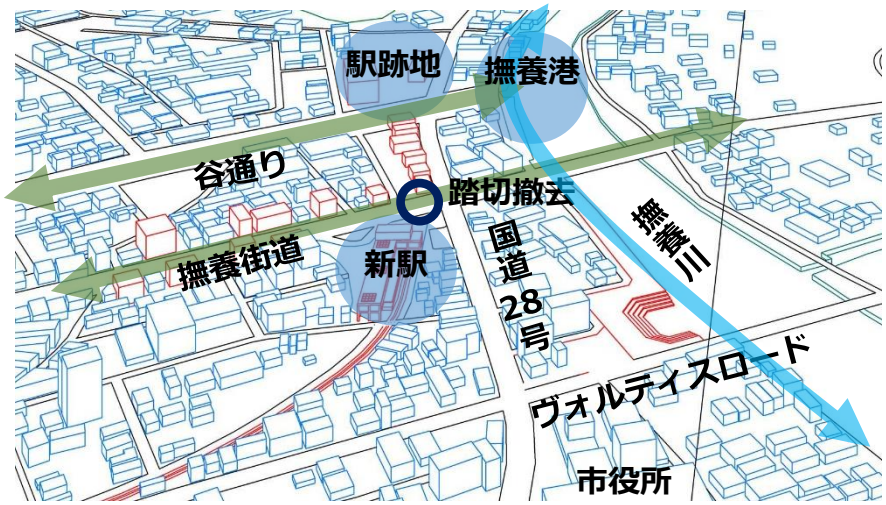
＃むやるんじょ

むやるんじょは、本市の中心地である撫養の地名に、方言の「～じょ」を併せた、本プロジェクトのキーワードです。
撫養は、舟を「つなぐ」を意味する「もやう」が語源とされていることから、人や事業者・行政など、
まちづくりに関わる様々な主体をつなぐという意味と”まちなかでやろうよ”との意味を持たせています。
今後「＃むやるんじょ」をキーワードに、デジタル上でも情報発信を行い、人や活動、まちの魅力をつないでいきます。

各エリアの具体的な取組み ～まちのコアの形成・最適化が、都市構造再編の契機に～

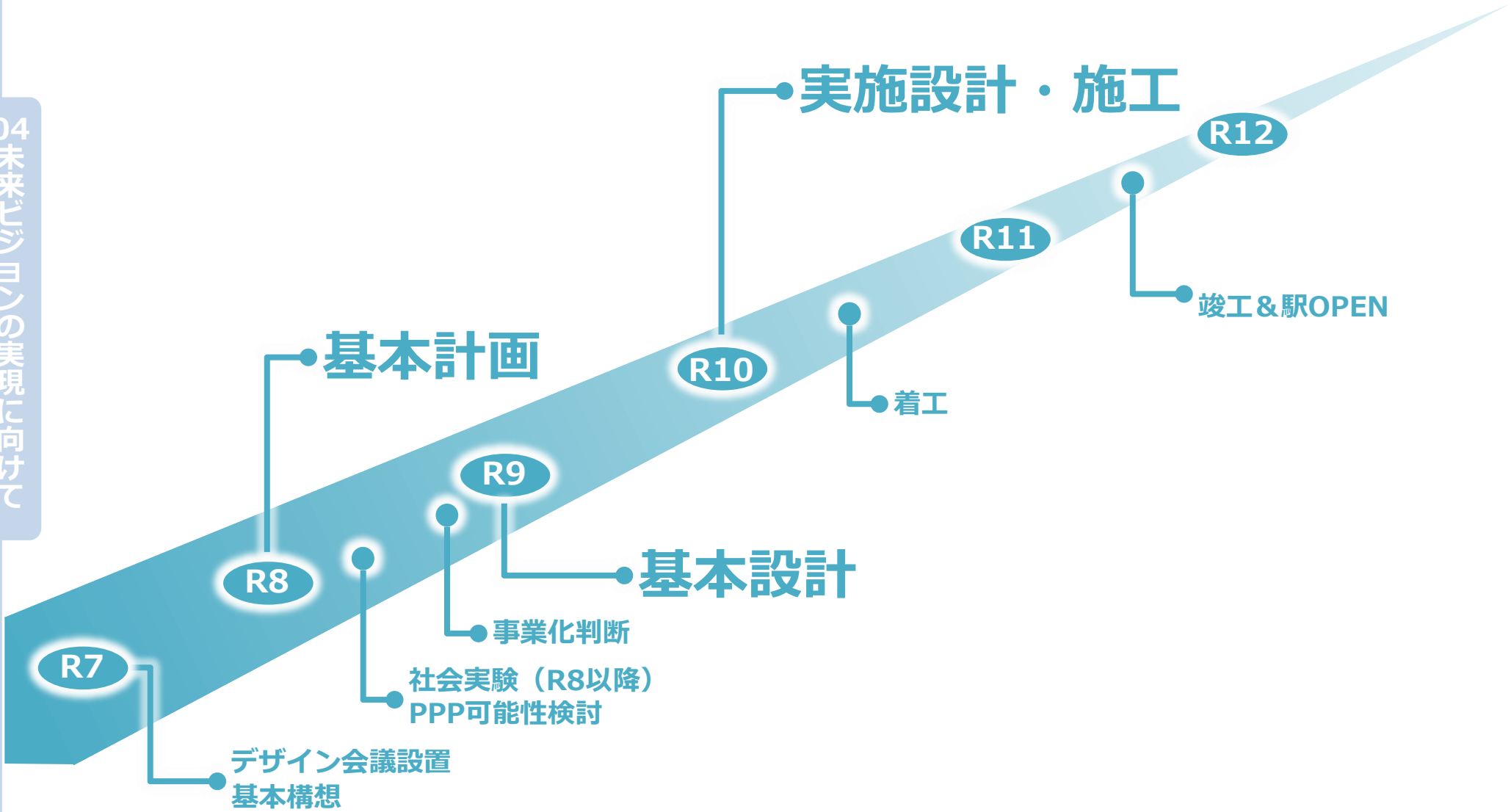
駅周辺を一体的に捉え、交通結節機能の強化、商店街や撫養港との連携等を踏まえ、中心市街地の顔となる「まちのコア」の形成と最適化を目指します。駅の位置や駅前空間について、都市動線の結節性、商店街との関係、周辺施設との近接性、事業実現性などの視点を踏まえ、駅周辺の空間構成に関して複数の可能性を整理しています。

※「まちのコア」とは、鉄道の駅やバスやタクシー等の二次交通が集まる交通結束点機能、広場や待ち合わせ場所、モニュメントがある等のシンボル機能、商業や飲食、各種サービスが賑わいを創出する機能など、複合的な役割を果たす都市機能拠点と位置付けています。

【２つの東西軸の間】	【２つの東西軸の南】
	
優れている点	
・駅の各動線のハブとしての結束性が高い ・駅と撫養港とのつながりを生み出しやすい ・駅の東西に交通結節機能の設置が可能 ・新駅と駅跡地との距離が近く、連携した取組みが行いやすい	・市役所(行政・文化ゾーン)やスタジアムとの近接性が高まる ・駅の出入口と商店街を近接することが可能である （ただし直接的は接続は困難） ・撫養街道（南の東西軸）から踏切が除去される
留意すべき問題点	
・駅の出入口と商店街（撫養街道）とが直接つながらない ・駅施設及び駅前広場の設置に際しクリアすべき課題がある ・駅北側からのアクセスがやや遠くなる ・駅移転に伴う支障物件発生し、合意形成が必要 ・支障物件に対する補償が発生し、コストは大きくなる	・駅施設及び駅前広場の設置における難易度が高い ・撫養駅との駅勢圏のバランスが悪くなる ・駅移転に伴う支障物件が多く、合意形成の難易度が高い ・支障物件が多く、また新駅設置の構造的難易度が高い

※ 鳴門線の延伸や高架化、さらに南西側に鳴門駅を置く考え方については、コストや実現性等の観点から、今後の検討対象には含めない考えです。

まちのコア整備に向けたロードマップ



表示は年度とする

実現化に向けた体制

多様な主体の連携によるまちづくり

鳴門市まちづくりデザイン会議を中心に、様々な主体が参画し、連携と対話を重ねながらまちづくりの方策や取組みを検討し、本ビジョンの実現を目指します。

まちを使う人たち

商店街事業者

マルシェ

市民・通行人
利用者・来訪者

若者世代

鳴門市阿波踊り

企画への参加
意見・要望・連携

鳴門市
まちづくり
デザイン会議

まちづくりを担う人たち

行政

事業者

まちづくり会社

地元の方々

商工会議所

等

助言

専門的知見を提供する人たち

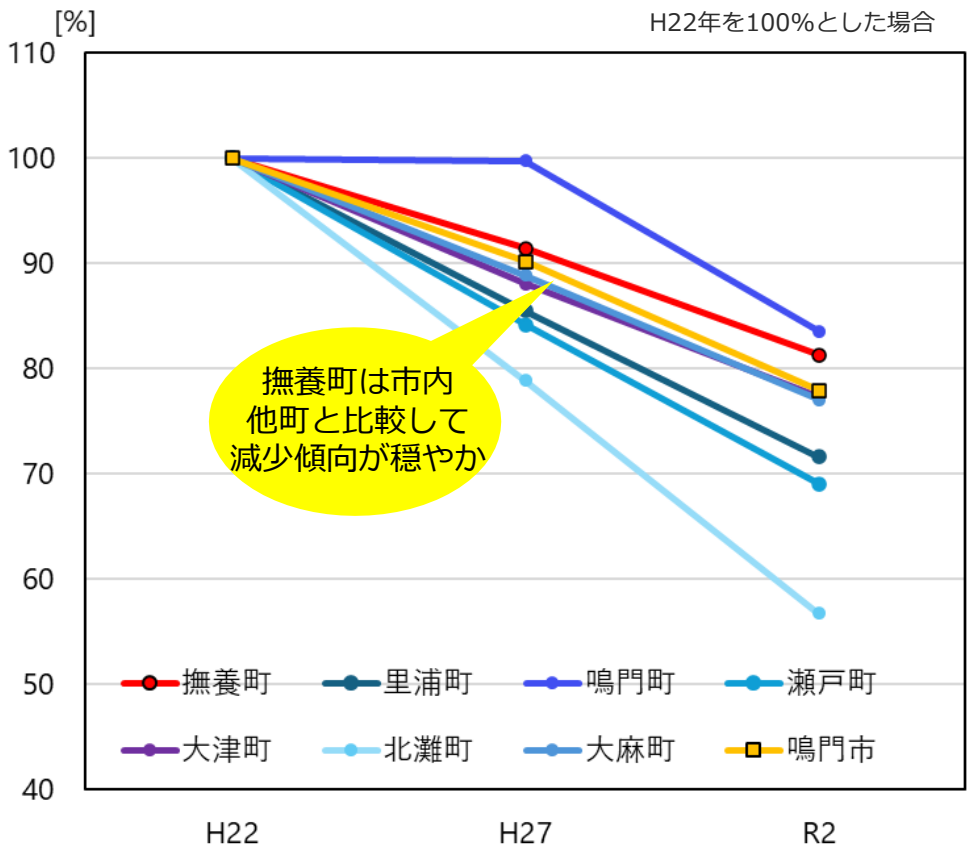
学識経験者

有識者

まちの現状 – 人口動態

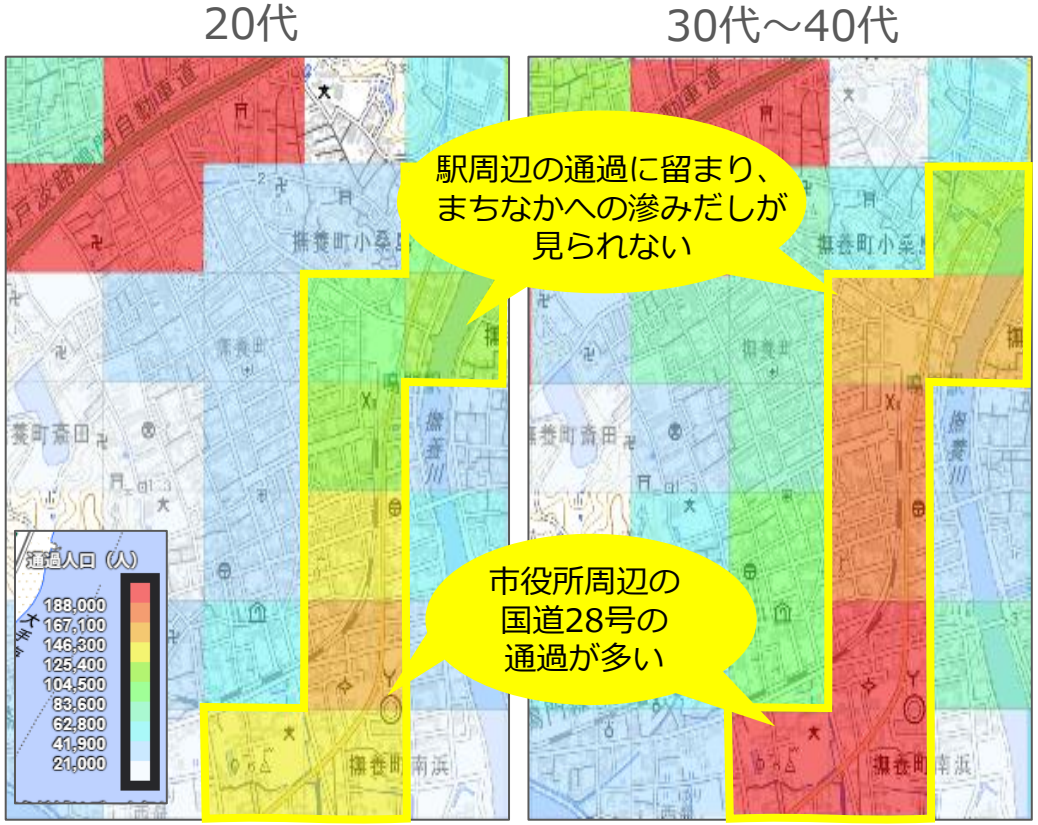
撫養町は、市内他地域と比較して人口減少が比較的穏やかであり、中心市街地として一定の人口基盤を維持しています。しかし、通過人口を分析すると、駅周辺などから まちなかへと広がる回遊動線が形成されていないことがわかります。

64歳以下の人口の推移



撫養町の64歳以下の人口割合は減少傾向であるものの、鳴門市内では鳴門町に次いで穏やか

年齢別通過人口



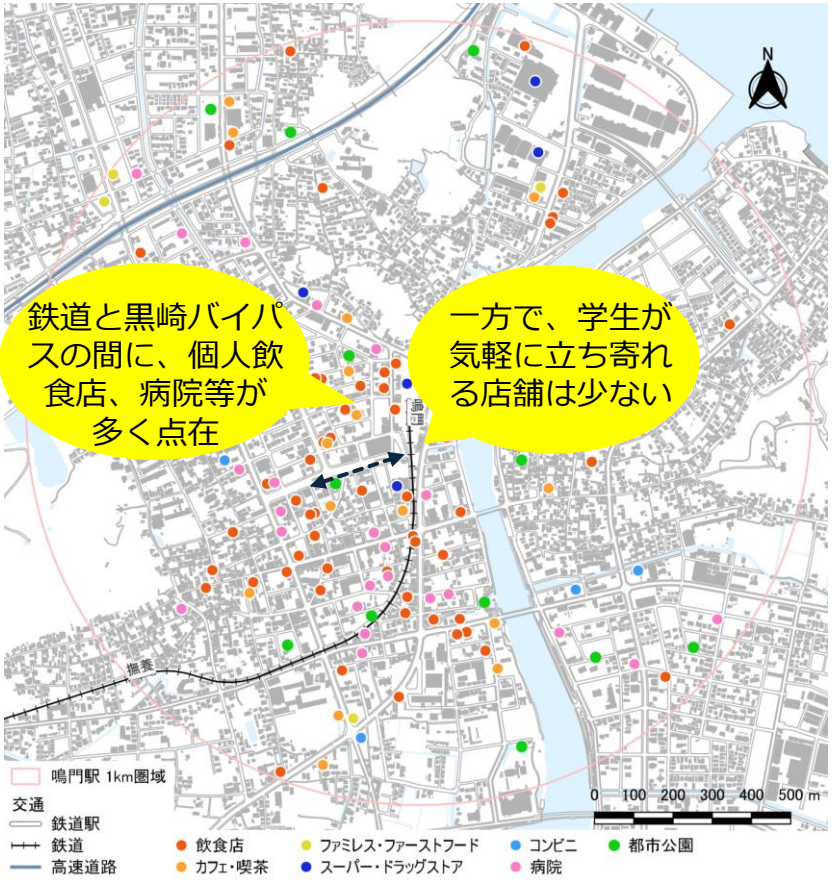
RESAS通過人口メッシュ分析

南北の幹線である国道28号の通過に特化し、商店街などへの人流の流れは見られない

まちの現状 – 土地利用

駅西側が本地区の中心的な商業エリアとなっており、地域に根ざした店舗が点在しています。
一方、空き家が続く区間や、駐車場等の低未利用地があり、土地利用の更新余地が見られます。
今後は、既存店舗の集積を活かしながら、民間投資の誘導や、空き家活用等を進めることで、
にぎわいの創出と持続可能な地域経済の形成を図ることが必要です。

飲食・小売等



都市機能の集積状況から、駅の西側に多くのローカルな地元店舗が点在している

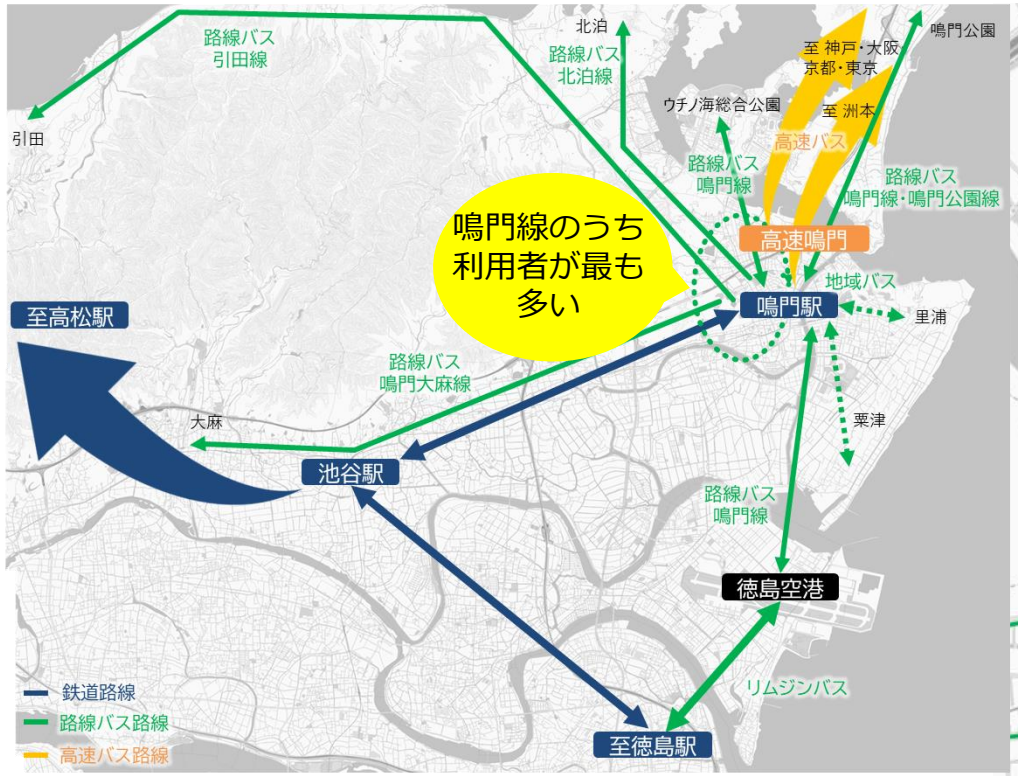
空き家・空き地・駐車場

撫養街道沿いの空き家が一定連担している箇所や、駐輪場等の低未利用地が存在

まちの現状 – 公共交通・道路

鳴門駅周辺は、市内の公共交通のハブであるものの、人や活動・都市機能が交差する都市構造上の結節点としては十分に機能しておらず、そのポテンシャルを発揮できていない状況です。

公共交通



市内においては比較的公共交通に恵まれた環境であり、公共交通のハブとなっている

鳴門駅と道路の関係

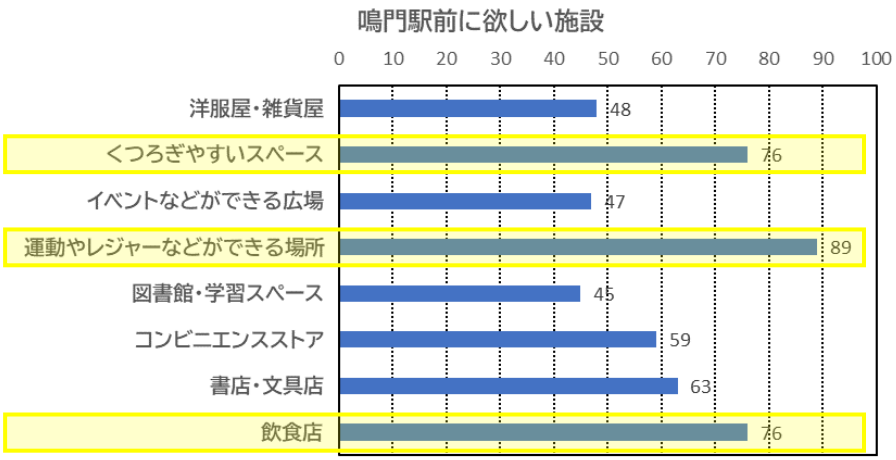
現駅は商業区域の重心からやや外れ、都市構造上の“結節点”として十分には機能しておらず、まちの一体性や回遊性の確保に課題があります

地元・デザイン会議での意見-学生アンケート調査結果

友人と気軽に集まれる居場所づくりが、まちへの愛着を育む

小学生・中学生・高校生といった若い世代は、まちなかでの自分たちが気軽に過ごせる居場所を求めています。友人と過ごせる魅力的な空間の創出は、まちへの愛着醸成にもつながります。

小学生



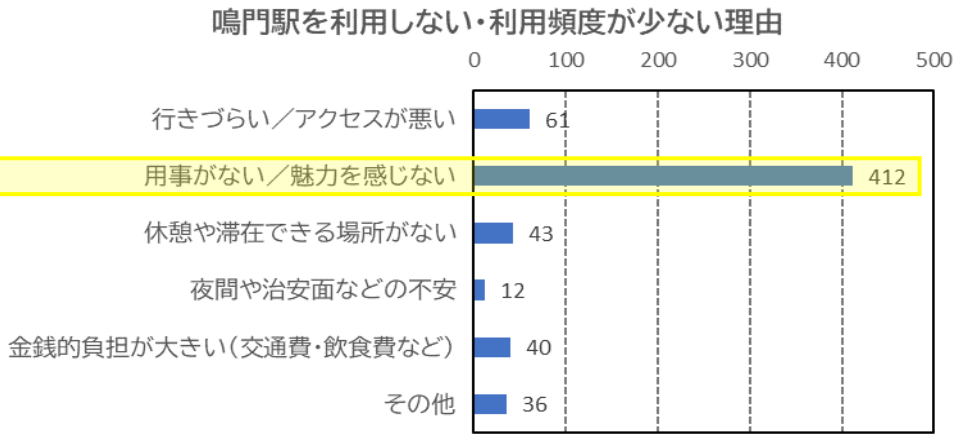
中学生

○中学生はどこで遊ぶ？
- 高校生に比べ、鳴門市内で遊ぶ子の割合が高い
- 遊ぶ場所では、「友達の家」や「公園・広場」の回答も多い
  → 低予算で気軽に友達と滞在できる場のニーズ

○どんな機能が欲しい？
- おしゃれもいいが、安心感と安全面が大事。
  → 親が安心できる場所だと中学生も寄りやすい？
- 友達と気軽に集まれる、一緒に勉強などができるフリーなスペース

○鳴門市のことは好き？
- 9割以上の生徒が鳴門市のことが好きだと回答
  → 今後も鳴門市と関わりたいという意欲をもっている生徒が多い。家族、友達の存在や鳴門の自然の豊かさなど魅力が愛着につながっている。
- 将来について、「まだ考えていない」生徒も一定数存在。
  → これからの経験や環境次第で、鳴門市との関わり方が大きく変わる可能性がある層。まちへの愛着を育てる取り組みを続けていくことが重要。

高校生



鳴門駅周辺がどのような場所だと、より利用したいと思いますか？

	回答数	率
おしゃれで若者向けの雰囲気	493件	67%
安心して長時間滞在できる空間	447件	61%
勉強や部活の打合せなどができる静かなスペース	176件	24%
友達と気軽に集まれるカジュアルな雰囲気	536件	73%
夜間でも安全な場所	254件	35%
地域の特色が感じられる場所（地元産品や観光要素など）	60件	8%
キッチンカーや屋台などのにぎやかさ	231件	31%
その他	11件	1%

地元・デザイン会議での意見-一般アンケート・社会実験

市民の居場所作りに向けて

アンケートや社会実験の結果を踏まえ、市民の居場所づくりの方向性を検討していきます。

夕暮れマルシェ

【いただいた意見の内容】

ご意見として、特に声の多かったものを紹介します。

- ○ 鳴門駅周辺で定期的にマルシェやイベントを開催してほしい
  - ⇒ 地域ににぎわいを生み出す定期開催のイベントなど
- ○ 気軽に寄れるおしゃれなカフェ、ゆっくり本が読める場所
  - ⇒ くつろぐことができる、滞在したくなる空間
- ○ 中高生が集まることのできる自習スペースやたまり場
  - ⇒ 若者が安心して使える居場所
- ○ 雨の日でも子供が遊べるスペース、広い公園
  - ⇒ まちなかで子どもがちょっと遊べる空間
- ○ 送り迎えや駅前に訪れる際に使用できる駐車場
  - ⇒ 駅及び駅周辺利用者の利便性向上

鳴門駅周辺にあったら嬉しい施設・空間

にぎわい・楽しさ
- ゲームセンターやカラオケ
- 映画館や水族館
- 商業複合施設
- キッチンカーの集まるイベント
- いぬねこカフェ
- おしゃれなカフェ
- アスレチック
- 放課後気軽に遊べる場所
- カルチャーセンター
- スポーツ広場
- 写真映えスポット

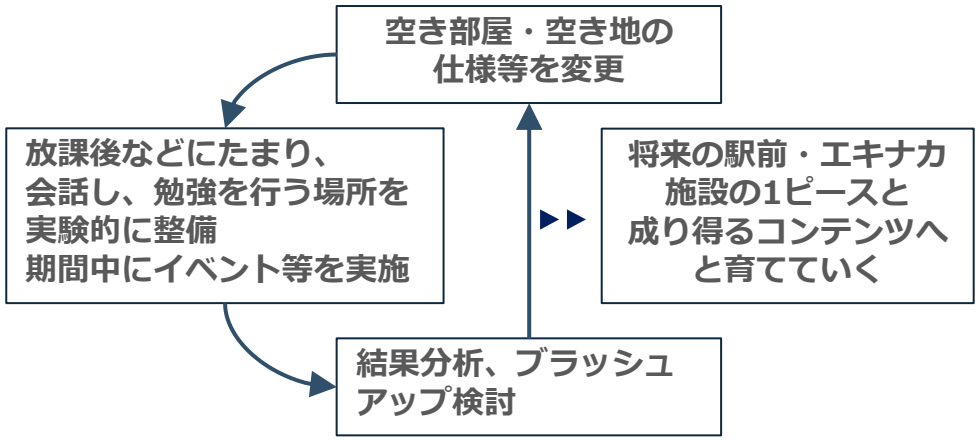
便利・使いやすさ
- 駐車場（○時間無料）
- レンタサイクル
- DMVの導入
- 自習スペース
- 素泊まりできるホテル
- スーパー
- コンビニ
- 赤ちゃんスペース
- 雨に強い駐輪場

休憩・やすらぎ
- 噴水や水飲み場
- 気軽に座れるベンチ
- キャッチボール出来る場所
- 遊具のある公園
- イベントの出来る公園

その他
- 街灯を増やして欲しい
- 時間をつぶせる空間
- 等身大フィギュアのようなシンボル
- ギャラリー

社会実験

「放課後に勉強できる場所が欲しい」
「友達と気軽に集まれる場所がない」
　これは、今年度に実施した中高生へのアンケートで寄せられた多くの声です。鳴門の未来を担う若者たちは、いま「自分たちの居る場所」を求めています。
　そこで、こうした声を具体的なコンテンツや空間づくりにつなげるため、実際に空間を具現化する社会実験を行います。
「ちょっと寄りたくなる居場所」をつくり、
若者がどう集まり、どう過ごすのかを検証していきます。



これまでの検討経緯

令和6年度から”鳴門市まちづくりデザイン会議※1”での議論を中心として、学生等を対象としたアンケート調査や交通量調査を実施してきました

※1　鳴門市都市計画マスタープラン等に基づき「新たな鳴門の顔」となるまちづくり及び「重点まちづくり区域」でのまちづくりについて専門的な見地から意見交換を行う会議。建築・都市交通・建築・不動産の専門家などで構成されています。

デザイン会議の様子

令和6年度

・まちづくりにおける課題・駅周辺の在り方について、有識者やJR四国との意見交換を開始

▶ **第1回鳴門市まちづくりデザイン会議　　中心市街地の歴史と現状、課題について議論**

令和7年度

・アンケート調査：駅周辺の小学生、鳴門高校、鳴門渦潮高校、市役所夕暮れマルシェ

・交通量調査：国道28号線、黒崎バイパス、谷通り、大道銀天街

▶ **第2回鳴門市まちづくりデザイン会議　　都市構造の課題整理**

・アンケート調査：市内中学校5校

▶ **第3回鳴門市まちづくりデザイン会議　　駅とまちの関係を整理**

・まちづくり・住まいづくりに関する市町村長との意見交換

・中学生によるまちづくりの研究・提案

市内中学校でのまちづくりの授業

▶ **第4回鳴門市まちづくりデザイン会議　　２つの東西の都市軸・撫養川の活用方法を検討**

・リノベーションまちづくり推進事業講演会

▶ **第5回鳴門市まちづくりデザイン会議　　未来ビジョン素案、まちのコアについて**

鳴門市まちづくりデザイン会議の詳細については ▶▶